

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K01
授業科目名			授業形態		学科・コース
コミュニケーション活動I			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	60	1	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
スポーツフェスティバルや遠足、特別講座、その他行事など、通常の教科の学習を越えた範囲のさまざまな学習活動を行う。校外での集団行動も多く、チームワークなど教室の授業では得られない学習効果が期待できる。コミュニケーション能力を向上させ、より良い人間関係を構築できるようになる。					
授業の概要					
各種行事（入学式・始業式・終業式・遠足・スポーツフェスティバルや特別講座など）が科目として消化される。欠席しないことが大事である。					
成績評価の方法					
各行事への意欲で評価する。					学習意欲 100%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
入学式			4		
新入生オリエンテーション			10		
春の遠足			8		
特別講座等			8		
防災訓練			2		
秋の遠足			8		
スポーツフェスティバル			8		
始業式・終業式など			12		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K07
授業科目名			授業形態		学科・コース
マナー講座I			演習		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	1	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>社会人として求められる基本的なマナーを理解・実践できる。            デジタル業界特有のマナー（オンライン会議、SNS 対応など）を適切に使い分けられる。            対外的な交渉・プレゼン場面でのマナーを身につける。            他者と良好なコミュニケーションを築くための姿勢・考え方を理解する。</p>					
授業の概要					
<p>社会人としての基本的なマナーとコミュニケーション能力を身につけるとともに、デジタル業界や経営分野に適したビジネススキルを実践的に学ぶ。オンライン・対面問わず、現代のビジネスシーンで求められるマナーや考え方を理解し、現場で即活用できる力を養う。</p>					
成績評価の方法					
課題 20%、学習意欲 80%					課題 20% 学習意欲 80%
使用テキスト・教材					
その都度プリントや資料を配布する。					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	オリエンテーション マナーとは	2	11	チームビジネスマナーとリーダーシップ	2
2	第一印象を決めるマナー① 身だしなみ	2	12	クレーム対応・トラブル時のマナー	2
3	第一印象を決めるマナー② 挨拶と表情	2	13	インターン・企業訪問に役立つマナー	2
4	言葉づかいと敬語の基礎	2	14	総まとめと実践ロールプレイ	2
5	ビジネスマナーの基本	2	15	振り返りと今後の課題	2
6	電話・メール・チャットのマナー	2			
7	オンラインマナーとリモートコミュニケーション	2			
8	ビジネス文書と報連相	2			
9	プレゼンの準備	2			
10	プレゼン発表	2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				年度		
				2026年度		
				科目コード		
				K-K10		
授業科目名			授業形態		学科・コース	
基礎英語			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	60	4	杉本 尚子	
授業の目的・到達目標						
基礎的な英語の構文を身に付けることを目標とする。						
授業の概要						
基本的な英語の文法や知識を復習する。英語でのコミュニケーション力の基盤となる語彙、文法について学習し、英文を正確に理解する力を身に付ける。						
成績評価の方法						
授業時の課題の実施状況とその内容（出来具合）及び学期末に行う期末試験を基に評価する。					課題 50%	
					期末試験 50%	
使用テキスト・教材						
Basic English Grammar for Global Communication やさしく詳しい基礎からの総合英語						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 現在形、過去形			4	11. 修飾語		4
2. 過去形、未来形			4	12. 接続詞		4
3. 進行形			4	13. 関係詞		4
4. 完了形			4	14. 仮定法		4
5. 助動詞			4	15. 期末試験		4
6. 受動態			4			
7. 不定詞。動名詞			4			
8. 名詞・冠詞			4			
9. 比較			4			
10. 前置詞			4			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K11
授業科目名			授業形態		学科・コース	
ビジネス英語 I			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	2	アンドリュー	
<b>授業の目的・到達目標</b>						
この授業では、学生は文法を中心に積上げてきた高校までの英語知識を利用し、海外とビジネスを行う場合を想定して実際に英語を使うための応用ができるようになります。						
<b>授業の概要</b>						
ビジネスの場面に対応したダイアログを用い、実際のビジネスで大きな役割を果たしている電話や直接対面での会話、そしてEメールについて学びます。						
<b>成績評価の方法</b>						
期末試験 60%、授業内課題 40%					期末試験	60%
					授業内課題	40%
<b>使用テキスト・教材</b>						
ENGLISH FOR EVERYONE COURSE BOOK LEVEL1 DK						
<b>授業内容・授業計画</b>						
			時間数			時間数
第1回	Meeting new colleagues		2	第13回	Past events	2
第2回	Everyday work activities		2	第14回	Dates and times	2
第3回	Business around the world		2	第15回	Career history	2
第4回	Asking questions at work		2			
第5回	Exchanging details		2			
第6回	Skills and experience		2			
第7回	Choosing a job		2			
第8回	Describing your workplace		2			
第9回	Personal qualities		2			
第10回	Describing your job		2			
第11回	Workplace routines		2			
第12回	Hobbies and habits		2			
<b>その他</b>				<b>関連科目</b>		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K13
授業科目名			授業形態		学科・コース
実用英語 I			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	増田 康代
授業の目的・到達目標					
Reading / Listening / Speaking / Writing の4つの技能を身につけます。実際のBBCやCNNで流れるニュース、また英字新聞、雑誌等を理解できる力を養うことを目標としています。					
授業の概要					
英文読むことから始め、文法を理解しながら Listening / Speaking / Writing の演習を行う。テキストの問題演習を通して理解を確認し、幅広いトピックに触れることで、多様な話題に関して英語で発信していくエクササイズを積み、英語で発信できる力を伸ばす。					
成績評価の方法					
授業時課題 60%、期末試験 40%					課題 60% 期末試験 40%
使用テキスト・教材					
考える基礎英語読本ーRead on, Think on [Basic Level] 三修社 ゼロからのTOEIC L&R テスト 600点全パート講義 (The Japan Times 出版) 和久健司					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1. Noodles			2	11. Live Action Versions of Animated Movies	2
2. Mysterious Object			2	12. Tapioca and Bubble Tea	2
3. Baskin-Robbins			2	13. Animal Beauty Contests	2
4. Dealing with "Claimers"			2	14. Energy Drinks	2
5. Haunted Campus?			2	15. まとめ・期末試験	2
6. Solo Artists are More Popular			2		
7. Headphones			2		
8. Where Did the Moon Come From?			2		
9. Road Page			2		
10. Irritating Things on the Train			2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				年度	
時間数は45分換算				2026年度	
				科目コード	
				K-K18	
授業科目名			授業形態		学科・コース
コンピュータ演習 I			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	60	4	島田 幸紀
授業の目的・到達目標					
現代の情報化社会に生きる我々にとってコンピュータや通信機器は必須の道具となっており、これらを使いこなす能力は我々現代人に求められる基本的なスキルといえる。これらは単に個人が文書作成や数値計算をするための道具ではなく、ネットワークを介して人間同士がコミュニケーションを行うための重要な道具ともなっている。また、様々な分野において、人々の行動データ等の膨大なデータや人工知能 (Artificial Intelligence: AI) を活用したりすることが増えてきた。このような状況をふまえ、本授業では文書作成ソフトウェア Word (以下「Word」と記す)、PowerPoint の操作方法や基本的な機能を学ぶと同時に、学内 LAN やインターネットを利用する過程で、そのネットワーク環境を効果的、安全、適正に使用するための知識や技術を習得する。					
授業の概要					
PC 基礎知識・PC 基本操作・Word・PowerPoint の操作を身につける。					
成績評価の方法					
課題の提出状況及びその内容 60%、教室で確認できる習熟度 (タイピングスキル、受講態度等) 20%、理解度確認テスト 20%を総合して評価する。				課題提出	60%
				習熟度	20%
				期末試験	20%
使用テキスト・教材					
今すぐ使えるかんたん Microsoft365、MOS Word365 Expert 対策テキスト&問題集					
授業内容・授業計画					
[パート 1] Word 編		時間数	[パート 2] PowerPoint 編		時間数
1. Microsoft365 の基本操作		2	1. PowerPoint の基本操作		2
2. Word の基本操作		2	2. オブジェクトの挿入		2
3. 書式と段落の設定		2	3. アニメーションの設定		2
4. 図形/画像/ページ番号の挿入		2	4. 印刷とスライドショー		2
5. 表の作成		2	5. PowerPoint と Excel		2
6. Outlook の基本操作		2	6、7. 実践課題 1		4
7. メールの便利な機能と連絡先の管理		2	8、9. 実践課題 2		4
8. 予定表とタスク		2	10~12. 実践課題 3		6
9. 図形/画像/ページ番号の挿入		2	13~14. 発表		4
10. 表の作成		2	15. 全体のまとめ		2
11. Outlook の基本操作		2			
12. メールの便利な機能と連絡先の管理		2			
13. 予定表とタスク		2			
14. 実践課題		2			
15. 全体のまとめ		2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				年度		2026年度	
時間数は45分換算				科目コード		K-K19	
授業科目名			授業形態		学科・コース		
コンピュータ演習Ⅱ			講義		デジタル経営学科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	後期	必修	60	4	島田 幸紀		
授業の目的・到達目標							
アプリケーションプログラムとして、Microsoft Office 365 の Excel の基礎を習得する。演習を通して、それぞれのアプリケーションの理解を深める。関数を使った表作成、視覚的なプレゼンテーション資料を作成ができるようになる。							
授業の概要							
Excel では、基礎的な関数、少し高度な関数 (IF・VLOOKUP) の習得、グラフ、データベース機能について学習し、IT パスポート試験の表計算分野の問題が解ける力を身に付ける。 また、データサイエンスや AI に関するリテラシーレベルの知識を習得し、これらの適切な使い方を修得する。さらに、将来取り組む課題の解決に必要な情報の探索・収集、分析・整理、アウトプット (レポート、プレゼンテーション等) といった一連の情報利活用能力を身につけることを目的とする。							
成績評価の方法							
課題の提出状況及びその内容 50%、教室で確認できる習熟度 20%、平常点 30% (授業に臨む態度・姿勢) を総合して評価する。					課題	50%	
					平常点	30%	
					習熟度	20%	
使用テキスト・教材							
今すぐ使えるかんたん Microsoft365 技術評論社 よくわかるマスター Excel365 Expert 対策テキスト&問題集 FOM 出版 よくわかるマスター Word365 Expert 対策テキスト&問題集 FOM 出版							
授業内容・授業計画							
[パート1] Excel 編		時間数	[パート2] Windows の基礎、数理・DS・AI 編		時間数		
1. Excel の基本操作	2		1. Windows の基礎	2			
2. セルや行/列の編集	2		2. インターネットの理解	2			
3. 数式と関数の利用	2		3. 個人情報とセキュリティ	2			
4. グラフの作成	2		4. フォルダとファイルの管理	2			
5. Excel の印刷	2		5. OneDrive の活用	2			
6. Outlook の基本操作	2		6. ネットマナーとルール	2			
7. メールの便利な機能と連絡先の管理	2		7. コンピュータウイルス	2			
8. 予定表とタスク	2		8. 著作権とコンピュータ犯罪	2			
9. 図形/画像/ページ番号の挿入	2		9. 大量のデータを扱う方法 (1)	2			
10. 表の作成	2		10. 大量のデータを扱う方法 (2)	2			
11. Outlook の基本操作	2		11. データの加工・解析	2			
12. メールの便利な機能と連絡先の管理	2		12. データの分析	2			
13. 予定表とタスク	2		13. データサイエンス実習 (1)	2			
14. 実践課題	2		14. データサイエンス実習 (2)	2			
15. 全体まとめ	2		15. データサイエンス実習 (3)	2			
その他				関連科目			

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
時間数は45分換算					科目コード	K-K20
授業科目名			授業形態		学科・コース	
心理学			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	2	内野 千珠子	
授業の目的・到達目標						
①心理学はメンタリズムや読心術ではないという基礎的な知識を持つことが出来る。 ②人間の知覚・認知の流れについて基礎的な知識を持つことが出来る。 ③学習理論について基礎的な知識を持つことが出来る。 ④人間相互の関係、社会と人間の関係について基礎的な知識を持つことが出来る。 ⑤①～④までのことを大学学部生として簡単に説明することができる。						
授業の概要						
①心理学に関する前提知識は必要ではありません。 ②心理学の概要について広く浅く学びます。						
成績評価の方法						
期末試験 50%、レポート 50%					期末試験	50%
					レポート	50%
使用テキスト・教材						
ベーシック心理学 二宮克美 医歯薬出版株式会社						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 知覚—知覚の成立、知覚の体制化、知覚の様相			2	9. 発達②—青年期以降		2
2. 学習・記憶—学習のプロセス、記憶のメカニズム			2	10. 人間関係—対人認知、帰属理論等		2
3. 動機付け—動機付けの分類、欲求			2	11. 集団—集団の心理、リーダーシップ、社会的影響		2
4. 感情—感情のメカニズム、フラストレーション、ストレス			2	12. 精神的健康—メンタルヘルス、心理臨床の対象、心理療法		2
5. パーソナリティ—パーソナリティの記述、調べ方、異常と障害			2	13. カウンセリング—カウンセリングの定義と成り立ち・理論と技法		2
6. 知能—知能の構造、知能の測定			2	14. コミュニケーション		2
7. 思考—思考とは何か、問題解決、創造性			2	15. 心理学の歴史と研究法		2
8. 発達①—児童期まで			2			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K22
授業科目名			授業形態		学科・コース
社会福祉総論			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	山本 香世子
授業の目的・到達目標					
【授業の目的】 1. 現代社会の抱える課題について理解する。2. 社会福祉の基礎的な概念について理解する。3. 社会福祉の仕組みと運営について理解する。4. 社会福祉の各領域における制度やサービスについて理解する。					
【到達目標】 1. 私たちの暮らしと社会福祉の基礎概念との関係について説明することができる。2. 私たちの暮らしと社会福祉の仕組みとの関係について説明することができる。3. 私たちの暮らしと社会福祉の各領域における制度・サービスとの関係について説明することができる。4. 社会福祉の視点から、私たちの暮らしの現状と課題について自身の言葉で語るすることができる。					
授業の概要					
到達目標1に関しては、社会福祉の考え方、社会福祉と人権、社会福祉の援助原理などの視点から考える。到達目標2に関しては、社会福祉の法律、社会福祉の行政、社会福祉の機関などの視点から考える。到達目標3に関しては、子ども家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉などの視点から考える。到達目標4に関しては、到達目標1・2・3を踏まえ、これからの私たちの暮らしのあり方について主体的に考え、表現する。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
山懸文治・岡田忠克編 (2024) よくわかる社会福祉 (第11版) ミネルヴァ書房					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
第1回	社会福祉の基礎概念①		2	第9回	子ども家庭福祉②
第2回	社会福祉の基礎概念②		2	第10回	高齢者福祉①
第3回	社会福祉の取り巻く状況		2	第11回	高齢者福祉②
第4回	社会福祉の仕組みと運営①		2	第12回	障害者福祉①
第5回	社会福祉の仕組みと運営②		2	第13回	障害者福祉②
第6回	社会福祉の機関と施設①		2	第14回	地域福祉①
第7回	社会福祉の機関と施設②		2	第15回	地域福祉②
第8回	子ども家庭福祉①		2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K26
授業科目名			授業形態		学科・コース	
デザイン			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	2	高田 博道	
<b>授業の目的・到達目標</b>						
デザインには狭い意味と広い意味がある。その入口として「調和と対比」をキーワードとして、人の心を動かすものはなにか、共感するとは何かを考察していく。また、デザインがそのコトとどういった関係を持っているかを体験していく。前記3つの概念に自分なりの答えを用意できるようになる。						
<b>授業の概要</b>						
調和と対比。調和とは同じような質のもので構成されているものである。落ち着きや安定といった感情を作ることができる。一方で退屈やつまらないといった評価がされることがある。対比とはその逆で違う質のもので構成された状態。おもしろい、ワクワクするといった気分を作ることができるが、一方でまたうるさい、ごちゃごちゃした、といった評価になることも多い。どちらが良い悪いではなく、適材適所に配置することが肝心となるが、そのまえに調和と対比を意図的に作れないと話がはじまらない。簡単な色から初めて自分のポスターを制作していく。						
<b>成績評価の方法</b>						
課題制作 80%、学習意欲 20%					課題制作	80%
					学習意欲	20%
<b>使用テキスト・教材</b>						
デザイン入門教室 [特別講義] 増補改訂版						
<b>授業内容・授業計画</b>						
			時間数			時間数
1. オリエンテーション 感じるとは何か			2			
2. 色			2			
3. かたち			2			
4. 質感			2			
5. カメラの基本操作			2			
6. 自分のポスターを作る			2			
7. 文字の基礎知識			2			
8～9. 撮影とロゴ制作の同時進行			4			
10～14. 撮影とロゴ制作の同時進行			10			
15. 講評・まとめ			2			
<b>その他</b>				<b>関連科目</b>		

シラバス (授業概要) 時間数は45分換算					年度	2026年度
					科目コード	K-K27
授業科目名			授業形態		学科・コース	
基礎数学			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	60	4	菊地 泰則	
授業の目的・到達目標						
大学数学を学ぶための数学の基礎的な知識を身に付けることを目標とする。統計学や数値解析を行うための基礎的な数式の計算方法を学び、経営数学へ繋げるために必要な知識を身に付ける。						
授業の概要						
基本的な数学の知識を学び直すところから始める。数と式の基本的な内容（因数分解等）から、関数の理解、集合・場合の数を学び直し、基礎的な数学の知識を身に付ける。						
成績評価の方法						
授業の区切り毎に実施する小テスト及び学期末に行う期末試験を基に評価する。また、授業中の参加意欲に応じて成績評価を行う。					小テスト	30%
					期末試験	50%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
新版数学シリーズ 新版基礎数学 改訂版 岡本和夫監修 978-4-407-34887-3 実教出版						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 数と式 (整式)			4	11. 三角関数		4
2. 数と式 (整式の除法と分数式)			4	12. 座標平面上の点と直線		4
3. 数と式 (数)			4	13. 2次曲線		4
4. 2次関数			4	14. 不等式と領域		4
5. 2次関数とグラフ			4	15. 集合と要素の個数		4
6. 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式			4	16. 場合の数・順列・組み合わせ		4
7. 高次方程式			2	17. まとめと期末試験		2
8. 関数とグラフ			4			
9. 指数関数			2			
10. 対数関数			2			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K28
授業科目名			授業形態		学科・コース
データサイエンス・AI入門			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	渡部 草太
授業の目的・到達目標					
AIやデータサイエンスの意味と価値が理解できる。データ分析の手法が理解できる。幅広く活用されていることが理解できる。					
授業の概要					
事象から発生するデータを蓄積し、活用する術を学ぶ。身近なデータに触れることでデータを活用したビジネスアイデアの捻出や知識の蓄積を行う。					
成績評価の方法					
授業内容に応じてレポートを課す。また、授業中の参加意欲に応じて成績評価を行う。				課題提出	40%
				プレゼン	40%
				学習意欲	20%
使用テキスト・教材					
ビジネスの現場で使えるAI&データサイエンスの全知識 インプレス					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション・データサイエンスの手法	2	11. オリジナル課題設定と解決策検討②	4		
2. 集計、可視化、記述統計	2	12. プレゼンテーション発表②	4		
3. 教師あり学習 (回帰問題)	2				
4. 教師なし学習 (分類問題)	2				
5. ディープラーニングによる画像解析	2				
6. オリジナル課題設定と解決策検討①	2				
7. プレゼンテーション発表①	4				
8. 教師なし学習	2				
9. レコメンデーション	2				
10. 最適化	2				
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K34
授業科目名			授業形態		学科・コース
経営学			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	高田 博道
授業の目的・到達目標					
<p>経営学は、経営に関する数多い専門科目の基礎を学ぶ科目である。私たちは、さまざまな企業からいろいろな商品やサービスを購入している。企業なくして社会は成り立たず、社会の発展はありえない。企業の行動を通じて、経営・ビジネスの知識を学び、考えることは、社会を見る目を広げる実学そのものである。講義では経営に関する基礎的な知識と理論を説明し、企業がどう行動しているか経営の仕組みを総合的に学び、理解することを目標とする。</p>					
授業の概要					
<p>経営とは何か、その仕組みを「ヒト、モノ、カネ、情報」という経営資源と外部環境との関係から解きほぐし、企業に関するさまざまな項目を多面的に勉強していく。企業について、外部環境の中でどのように行動していくのか、企業の組織はどのようになっているのか、今後の企業はどのように発展していくのか、などを具体的に学んでいく。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験 70% レポート 30%
使用テキスト・教材					
井出久光著 テキスト経営学[第3版] - 基礎から最新の理論まで - ミネルヴァ書房					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
第Ⅰ編 経営学と企業の特徴			第Ⅲ編 経営組織の特徴と理論		
第1章 経営学とその位置づけ	1		第12章 組織とは何か	1	
第2章 企業の特徴	1		第13章 基本的な組織形態	1	
第3章 企業の種類	1		第14章 さまざまな組織形態	1	
第4章 株式会社の特徴と仕組み	1		第15章 経営戦略論	1	
第Ⅱ編 経営理論の流れ			第16章 人事管理論とリーダーシップ論	1	
第5章 経営学の発生	1		第17章 マーケティング論	1	
第6章 テイラーと科学的管理法	1		第18章 生産管理論	1	
第7章 ヘンリー・フォードとフォードイズム	1		第19章 財務管理論	1	
第8章 ファヨールと管理過程論	1		第20章 日本的経営論	1	
第9章 メイヨーと人間関係論	1		第21章 現代社会と企業	1	
第10章 行動科学と統合理論	1		第22～第30章 まとめ	9	
第11章 近代管理論からコンティンジェンシー理論へ	1				
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
時間数は45分換算					科目コード	K-K35
授業科目名			授業形態		学科・コース	
経済学入門			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	2	高田 博道	
授業の目的・到達目標						
現実の経済現象の事例を用いながら、ミクロ経済学とマクロ経済学に関する基礎的な知識を身に付けることを目標とする。現実の経済現象は様々な要因が絡み合う中で生じているため非常に複雑であるが、経済学の基礎的な知識を身に付けることで、これらの現象とその問題点に対する理解が深まる。						
授業の概要						
経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学という2つの支柱となる理論が存在する。大まかに分類すると、前者は家計の消費行動や企業の生産行動と市場を通じたモノやサービスの取引などに主眼を置いており、後者は経済を全体的に捉え、一国の経済活動の水準の決定とその変化などを分析対象としている。本科目では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験	70%
					レポート	30%
使用テキスト・教材						
はじめての経済学〈上〉						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
第1章 経済学とは何か			6			
第2章 経済を大づかみに捉えるとーマ クロ経済学の基本			8			
第3章 日本経済を変えた三つの分岐点 ーマクロの視点で考える			8			
第4章 市場の原理を理解するーミクロ 経済学の基本			8			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要) 時間数は45分換算					年度	2026年度
					科目コード	K-K38
授業科目名			授業形態		学科・コース	
簿記			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	60	4	周防 優子	
授業の目的・到達目標						
基本的な商業簿記の修得をします。						
授業の概要						
簿記とは企業や商店などの日々の経済活動を記録し、それを集計して会計期間ごとに貸借対照表と 損益計算書を作成する一連の手続きのことです。 この会計期間をワンサイクルとする一連の手続きについて学びます。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験	70%
					レポート	30%
使用テキスト・教材						
よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 TAC 出版						
授業内容・授業計画						
	時間数		時間数		時間数	
1. オリエンテーションと複式簿記の基本	2	16. 試算表	2			
2. 現金の仕訳と資産・負債・純資産・費用・収益	2	17. 決算	2			
3. 預金と有価証券	2	18. 費用・収益、試算表	2			
4. 売掛金・受取手形・貸付金	2	19. 減価償却	2			
5. 固定資産	2	20. 貸倒引当金繰入	2			
6. 資産のまとめ	2	21. 費用・収益の繰延	2			
7. 借入金	2	22. 費用・収益の見越	2			
8. 買掛金・支払手形	2	23. 仕入と売上原価	2			
9. 未払金・預り金	2	24. 決算整理仕訳のまとめ	2			
10. 資本金・資本準備金	2	25. 損益計算書の作り方	2			
11. 未処分利益	2	26. 貸借対照表の作り方	2			
12. 負債・純資産のまとめ	2	27. 精算表とは	2			
13. 費用	2	28. 精算表の作り方	2			
14. 収益	2	29. 決算・財務諸表・精算表のまとめ	2			
15. 簿記一巡	2	30. 確認テスト	2			
その他			関連科目			

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
時間数は45分換算					科目コード	K-K39
授業科目名			授業形態		学科・コース	
簿記演習 I			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	90	3	周防 優子/中山 高伸	
授業の目的・到達目標						
基本的な商業簿記の修得を目標とします。						
授業の概要						
簿記とは企業や商店などの日々の経済活動を記録し、それを集計して会計期間ごとに貸借対照表と損益計算書を作成する一連の手続きのことです。 この会計期間をワンサイクルとする手続きについて学んでいきます。						
成績評価の方法						
期末テスト 70%、授業内課題 30%					期末試験	70%
					課題	30%
使用テキスト・教材						
よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 TAC 出版						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 「ガイダンス」			3	16回「その他の債務と債権①」(貸付金・借入金、未収入金・未払金、立替金・預り金)		3
2. 「簿記のしくみ」(簿記の意義と基礎、貸借対照表)			3			
3. 「簿記のしくみ」(損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係)			3	第17回「その他の債務と債権②」(仮払金・仮受金、受取商品券、差入保証金)		3
4. 「勘定と取引」			3	第18回「受取手形と支払手形」		3
5. 「仕訳」			3	第19回「有形固定資産」①(取得、減価償却)		3
6. 「転記」			3			
7. 「決算Ⅰ」決算の意義と手続、試算表の作成			3	第20回「有形固定資産」②(売却)		3
8. 「決算Ⅱ」帳簿の締切り、繰越試算表の作成			3	第21回「貸倒損失と貸倒引当金」		3
9. 「決算Ⅲ」財務諸表と精算表の作成			3	第22回「資本」		3
10. 「現金と預金Ⅰ」現金、現金過不足			3	第23回「収益と費用」		3
11. 「現金と預金Ⅱ」当座預金と当座借越、小口現金			3	第24回「税金」		3
12. 「現金と預金Ⅲ」小口現金			3	第25回「伝票」		3
13. 「商品売買」3分法、諸掛、返品			3	第26回「財務諸表の作成①」(決算、決算手続、試算表の作成)		3
14. 「売掛金と買掛金」売掛金と買掛金			3	第27回「財務諸表の作成②」(決算整理事項)		3
15. 「売掛金と買掛金」クレジット売掛金、前払金・前受金			3	第28回「財務諸表の作成③」(精算表の作成)		3
				第29回「財務諸表の作成④」(財務諸表の作成)		3
				第30回 確認テスト		3
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度	
				科目コード	K-K41	
授業科目名			授業形態		学科・コース	
経営数学			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	60	4	高木 健治郎	
授業の目的・到達目標						
<p>経営に関する問題を理解し定式化することのできる基礎力と解析力を身につけるのが本授業のねらいである。</p> <p>専門科目で必要となる微分積分の基礎事項を習得することが目標であり、具体的には次を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関数の極限值、微分を求め、増減表やグラフを描くことができる。</li> <li>置換積分法や部分積分法等を理解し、不定積分や定積分を計算できる。</li> <li>簡単な微分方程式を解くことができる。</li> </ul>						
授業の概要						
経営学や経営情報学を学ぶ学生に必要な微分積分学を学修する。基本的な事項からはじめ、応用面まで実際に具体的な場面で数学が幅広く使え応用できるよう、基礎学力を身につける。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、各授業時小テスト 30%					期末試験 70% 小テスト 30%	
使用テキスト・教材						
数学概論 田代嘉宏 裳華房 ISBN:9784785310783						
授業内容・授業計画						
			時間数		時間数	
第1回	極限と連続性		4	第11回	三角関数の定積分	4
第2回	微分の定義と性質		4	第12回	スターリングの公式	4
第3回	接線、増減、極値		4	第13回	1階微分方程式	4
第4回	指数関数、対数関数		4	第14回	1階線形微分方程式	4
第5回	三角関数		4	第15回	2階線形微分方程式	4
第6回	高次導関数とテイラーの定理		4			
第7回	偏導関数とその応用		4			
第8回	不定積分		4			
第9回	定積分		4			
第10回	定積分の意味と応用		4			
その他			関連科目			

シラバス (授業概要)				年度		2026年度		
時間数は45分換算				科目コード		K-K43		
授業科目名			授業形態		学科・コース			
法学概論			講義		デジタル経営学科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
1	後期	必修	30	2	堀 保彦			
授業の目的・到達目標								
人は意識しているか否とにかかわらず、法律に制約を受けて生活している。よりよく幸せに生活するには、法律の基礎的な理解が必要だと考えられる。授業では、民法、会社法、労働法、刑法、憲法などの法律科目の入門編となるとともに、それらの法律の概要を理解することを目標とする。								
授業の概要								
人は生まれたときから、家族集団の中でその一員として生活しており、人の社会生活は、集団的な生活である。そこにはおのずからルールが存在しており、法のみならず道徳、宗教、慣習など私たちが社会生活をおくる上で守るべきルールすなわち社会規範によって保たれている。法は他の社会規範と異なっており、法に反した場合には、刑罰を科されたり、損害賠償を請求されたりして、国家の公権力によって、法が予定する秩序の回復がはかられる。しかし、法は決して難しいものでも、こわいものでもない。法を知ることによってむしろ法は、自分を守ってくれる。本科目では、まず法とは何かを理解した上で私たちの身近な民法、会社法、刑法などにふれて、日本国憲法がめざす基本原理等を学ぶ。								
成績評価の方法								
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験 70% レポート 30%			
使用テキスト・教材								
『ゼロからはじめる法学入門 [第3版]』法律文化社								
授業内容・授業計画								
		時間数				時間数		
1. 社会生活と法	2	7. 出生・死亡と法	2					
- 社会規範とは何か? 法規範の構造		- 民法3条1項の意味、権利能力、相続の意義、相続人と相続分						
2. 法と道徳—法と道徳との関係	2	8. 契約と法	2					
- 法と道徳との関係		- 契約自由の原則とその修正						
3. 法の存在形式と目的	2	9. 消費生活と法	2					
- 法源・法の分類について・法の理念		- 消費者問題と民放・消費者契約法・PL法等						
4. 法の種類と体系	2	10. 会社と法	2					
- 法は種々の基準によって分類されています。憲法の最高法規性		11. 職場と法	2					
5. 法の適用と解釈	2	12. 不法行為と損害賠償	2					
- 法の適用は裁判において最も明確に示されます。法の解釈の分類		13. 犯罪と法	2					
6. 家族と法	2	14. 紛争と法的解釈	2					
- 婚姻、離婚、親子		15. 人権と統治	2					
その他				関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K45
授業科目名			授業形態		学科・コース
社会学			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	60	4	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
人は皆、他者との様々なかかわりの中で生きており、こうした人間同士の諸関係から「社会」は成立している。社会学とは、こうした視座に基づいて社会のあり方や変動、そしてそこにもたらされる諸問題を考察し、そこから「人間とは何か」を考える学問である。この授業では、社会学の基本的なテーマや視点を学びながら、現代がかかえる社会的問題を検討し、人間や社会、文化についての理解力と問題発見力・解決力を養う。					
授業の概要					
授業では、個人と社会の関係性を考える際の基本的なテーマのひとつである「家族」について様々な角度から検討し、そこから現代社会の特徴と諸問題、さらには未来の展望について考えていきたい。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
岩間暁子・大和礼子・田間泰子（著）『問いからはじめる家族社会学 〔改訂版〕—多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 「家族」を読み解くために			7		
2. 「近代家族」の成立			7		
3. 家族・貧困・福祉			7		
4. 結婚			7		
5. 就業と家族			8		
6. 妊娠・出産・子育て			8		
7. 親—成人子関係のゆくえ			8		
8. 個人・家族・親密性のゆくえ			8		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K54
授業科目名		授業形態		学科・コース	
マーケティング		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	桜井 貴斗
授業の目的・到達目標					
この科目はマーケティング理論の基礎を理解し、企業のマーケティング行動がどのような意図で行われているのかを見極める目を養うことを目標とします。					
授業の概要					
マーケティングとは現代産業社会において、モノやサービスを効率よく消費者に届けるための活動です。戦後日本の驚異的な経済発展は活発なマーケティング活動の成功の成果とも言えるでしょう。その後は、サービス・マーケティング、ソーシャル・マーケティング、関係性マーケティング、デジタル・マーケティングといった言葉に表象されるように、さらなる発展を遂げてきました。こうしたマーケティングを通じて、履修生には、社会の変化も感じ取っていただきたいです。					
成績評価の方法					
プレゼン発表：50% レポート：50%				発表	50%
				レポート	50%
使用テキスト・教材					
マーケティング戦略 和田充夫 2022					
授業内容・授業計画					
		時間数		時間数	
第1回：序章－マーケティング戦略への招待、第1章－事業機会の選択	2	第11回：第12章－競争対応	2		
第2回：第2章－事業領域の選択	2	第12回：第13章－サービス・マーケティング	2		
第3回：第3章－標的市場の選択（第4章は任意）	2	第13回：第14章－ソーシャル・マーケティング	2		
第4回：第5章－消費者行動分析	2	第14回：第15章－関係性マーケティング	2		
第5回：第6章－競争分析	2	第15回：第16章－デジタル・マーケティング	2		
第6回：第7章－流通分析	2				
第7回：第8章－製品対応	2				
第8回：第9章－価格対応	2				
第9回：第10章－コミュニケーション対応	2				
第10回：第11章－流通チャネル対応	2				
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K57
授業科目名			授業形態		学科・コース
企画概論			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
地域課題や魅力を掘り起こし、調査・分析に基づくPR戦略を立案できるようになる。課題設定から仮説検証、情報発信までを一貫して行い、紙媒体・映像・SNS等の表現手法を適切に選択し、企画書・PRツール・発表で成果を示せるようになる。					
授業の概要					
地域の現状を知り、対象者や課題を定義する基礎調査から始め、コンセプト設計、表現手法の検討、PRツール制作（紙・映像・SNS等）、発表までを段階的に実践する。ワークショップやフィールドワークで仮説を検証し、共感を生むコミュニケーション設計を学ぶ。動画編集等のツール活用、中間・最終発表での振り返りを通して、実践的な企画力と発信力を養う。					
成績評価の方法					
グループワーク、プレゼンテーションなどへの意欲を重視する。課題の提出は必須。					期末試験 30% 課題 20% 学習意欲 50%
使用テキスト・教材					
なし その都度資料を配布する					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 地域課題の抽出			2		
2～4. データ収集			6		
5. ペルソナ作成			2		
6～7. インタビュー			4		
8～9. 発表ツール作成			4		
10. 中間発表			2		
11～13. 発表ツール作成			6		
14～15. 発表			4		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			企画演習 I		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K58
授業科目名			授業形態		学科・コース	
企画演習 I			演習		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	河内 嘉美	
授業の目的・到達目標						
起業やデジタルマーケティング、デザインの基礎を習得し、実社会の課題に対しチームで具体的な解決策を立案・実行できるようになる。また、SNS 運用やチラシ、WEB サイトの制作といった実践的な販促活動を行い、その成果やプロセスを論理的に伝えるプレゼンテーションができるようになる。						
授業の概要						
マーケティングや SNS 活用、デザインの理論を学んだ後、チームで地域振興や商品企画といった実社会の課題に基づくプロジェクトに取り組む。企画立案に留まらず、SNS のアカウント開設、チラシ制作、WEB サイト構築までを実際に遂行し、プロのフィードバックを受けながら企画から実行、発表までの一連のプロセスを体験する。						
成績評価の方法						
グループワーク、プレゼンテーションなどへの意欲を重視する。課題の提出は必須。					期末試験	30%
					課題	20%
					学習意欲	50%
使用テキスト・教材						
なし その都度資料を配布する						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. 企業、起業、デジタルマーケティングとは何か			2			
2. SNS マーケティング			2			
3. デザインについて			2			
4～8. プロジェクト進行			10			
9. 中間発表			2			
10～13. プロジェクト進行			8			
14～15. 発表			4			
その他				関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。				企画概論		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K66
授業科目名			授業形態		学科・コース
ビジネス IT 技術			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	中山 高伸
授業の目的・到達目標					
ビジネスで使用される基本的な情報技術について理解できるようになること					
授業の概要					
【授業内容のレベル】 ICT を利活用するための基本的な内容となっている。 【関連する科目】 経営に関する科目すべて。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、授業内課題 30%				期末試験	70%
				課題	30%
使用テキスト・教材					
「1週間でITパスポートの基礎が学べる本 [動画講義付き]」、IT すきま教室 渡辺さき、インプレス、2021年。ISBN : 978-4-295-01162-0					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
第01回 大人はビジネスで何しているの? 【1】ビジネスって何だろう	2	第08回 ビジネスをつくる!システム開発プロセス 【4】③システム開発プロセス 【5】④保守・運用プロセス	2		
第02回 大人はビジネスで何しているの? 【2】ビジネスを成長させる仕組み	2	第09回 コンピュータを動かそう! 【1】	2		
第03回 お金を正しく生み出そう 【1】マーケティングを知ろう	2	第10回 コンピュータを動かそう! 【2】	2		
第04回 お金を正しく生み出そう 【2】ルールを守ってビジネスしよう	2	第11回 大切な情報を守るセキュリティ 【1】情報資産への脅威と対策	2		
第05回 ビジネスに欠かせないお金トーク 【1】会社のお財布事情を見てみよう 【2】いくら売ったら利益なの	2	第12回 大切な情報を守るセキュリティ 【2】ネットワークを技術で守る	2		
第06回 ビジネスに欠かせないお金トーク 【3】ITとビジネス	2	第13回 コンピュータを活用しよう! 【1】コンピュータの世界	2		
第07回 ビジネスをつくる!システム開発プロセス 【1】プロセスの全体像 【2】①企画プロセス 【3】②要件定義プロセス	2	第14回 コンピュータを活用しよう! 【2】データを扱ってみよう	2		
		第15回 まとめ (これまでの振り返り)	2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K70
授業科目名		授業形態		学科・コース	
情報社会と倫理		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	菊地 泰則
授業の目的・到達目標					
<p>情報化の進展は利便性をもたらす反面、新たなトラブルを誘発する面があり、情報倫理の重要性がますます認識されるにいたっている。情報倫理の基本を学習し、倫理という側面から情報社会についての認識を深めることがこの科目のねらいである。学生が基本的な情報倫理を身につけ、社会の責任ある一員としてインターネットを発展育成させる能力を持つことが到達目標である。</p>					
授業の概要					
<p>インターネットの世界でありがちな事例を検討しながら、情報倫理を学び、監視社会の諸問題など情報社会について考察する。学生は、単にテキストに書いてあることを覚えるのではなく、サブテキストの指針・研究課題にそって、それらを批判的に吟味・理解し、関連する問題を自主的に文献その他で（とくにインターネットを実際に使用して）調べ、考えることが求められる。</p>					
成績評価の方法					
レポートと試験の期末試験結果を総合的に評価する（期末試験 70%、レポート課題 30%）。					期末試験 70% レポート 30%
使用テキスト・教材					
大橋真也ほか『最新情報モラル 高校版』 日経 BP 社					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 倫理と法 (1)	2	11. プレゼンテーションのマナー	2		
—情報倫理とはいかなる問題領域か?		12. ネットワーク社会との付き合い	2		
2. 倫理と法 (2)	2	13. 表現の自由とその限界	2		
—法と倫理を歴史的に考える		14. SNSと匿名性をめぐる問題	2		
3. インターネットの世界	2	—「炎上」			
4. メールのマナー	2	15. 情報社会を考える	2		
5. プライバシー権と通信の秘密	2	—新しい文化と監視社会			
6. 社内メールをめぐる諸事例を考える	2				
7. レポート作成のマナー	2				
8. 剽窃 (ひょうせつ)	2				
9. 著作権制度の概要とその目的	2				
10. 著作権制度の諸問題	2				
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
時間数は45分換算					科目コード	K-S84
授業科目名			授業形態		学科・コース	
教育原理			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	選択	30	2	高田 博道	
授業の目的・到達目標						
教育の理念や学校教育の目的を教育の歴史・教育の思想という観点から明らかにして、教育研究の基礎的・基本的な事項について理解する。						
授業の概要						
教育の目的・意義・方法・内容などについての基本的原則・理論的原理をもとにした教育・教育のしくみの概説を内容とする。加えて、現実の実際的な教育課題を検討の対象にする。教職に関する科目の入門的・基礎的な科目である。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験	70%
					レポート	30%
使用テキスト・教材						
佐久間裕之編著『教育原理』 玉川大学出版部 2022年						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1	教育理念		2	9	教育の歴史 (日本) 4	2
2	教育の歴史 (西洋) 1		2	10	教育の思想 (西洋) 1	2
3	教育の歴史 (西洋) 2		2	11	教育の思想 (西洋) 2	2
4	教育の歴史 (西洋) 3		2	12	教育の思想 (西洋) 3	2
5	教育の歴史 (西洋) 4		2	13	教育の思想 (西洋) 4	2
6	教育の歴史 (日本) 1		2	14	教育の思想 (日本) 1	2
7	教育の歴史 (日本) 2		2	15	教育の思想 (日本) 2	2
8	教育の歴史 (日本) 3		2			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S85
授業科目名			授業形態		学科・コース
教育概論			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	高田 博道
授業の目的・到達目標					
現在のわが国の学校と子どもが置かれている状態を概観し、学校教育の意義や教師のあるべき姿について考察し、教職の意義や具体的な教師の仕事を理解する。教職をめざす学生諸君に教職に就くことの意味を各自の人生の中で考えることができるようなテーマを提供する。					
授業の概要					
教職の意義と教師の仕事、教師の資質・能力、学校の組織運営、学校の間関係など幅広く教師に求められる役割や専門性について考察する。教育者としての使命感や子どもに対する責任について理解できるようなテーマについて考察する。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
羽田積男・関川悦雄編『現代教職論』 弘文堂					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
第1回	教職の意義		2	第9回	教員の資質と能力2
第2回	学校と教員の歴史1		2	第10回	教員の地位と身分1
第3回	学校と教員の歴史2		2	第11回	教員の地位と身分2
第4回	教員の養成 大学の教職課程とその学び方		2	第12回	教員研修1
第5回	介護体験・教育実習		2	第13回	教員研修2
第6回	教員の仕事と役割1		2	第14回	教職への進路1
第7回	教員の仕事と役割2		2	第15回	教職への進路2
第8回	教員の資質と能力1		2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-S86
授業科目名			授業形態		学科・コース	
発達と教育の心理学			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	選択	30	2	高田 博道	
<b>授業の目的・到達目標</b>						
個人の様々な側面が発達をするにつれてどのような変化をするのか、また、それらの変化が人の生涯の中でどのような意味を持つのかを学ぶことがねらいである。それらを学ぶ事によって、様々な世代の人たちの行動や心理が理解できるようになることを目標とする。						
<b>授業の概要</b>						
発達心理学とは人間が受胎し、生まれてから死ぬまでの一生涯における様々な変化を捉えていく事を学修する。具体的には運動機能の発達、認知・知能等の発達、家族関係・社会性の発達、自己意識の発達を学修する。						
<b>成績評価の方法</b>						
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験	70%
					レポート	30%
<b>使用テキスト・教材</b>						
佐久間裕之編著『教育原理』 玉川大学出版部 2022年						
<b>授業内容・授業計画</b>						
			時間数			時間数
第1回	人間と発達1		2	第9回	幼児期の発達-身体面について	2
第2回	人間と発達2		2	第10回	幼児期の発達-言語面について	2
第3回	人間と発達3		2	第11回	児童期の発達-身体発達面について	2
第4回	発達の理論1		2	第12回	児童期の発達-社会性の発達について	2
第5回	発達の理論2		2	第13回	思春期・青年期の発達について	2
第6回	発達の理論3		2	第14回	成人期・老年期とは	2
第7回	乳児期の発達の基礎		2	第15回	発達障害について	2
第8回	アタッチメント(愛着)理論の概要		2			
<b>その他</b>			<b>関連科目</b>			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S87
授業科目名			授業形態		学科・コース
教育制度論			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	高田 博道
授業の目的・到達目標					
現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解することをねらいとする。また、初等中等教育に照準化し、我が国の教育政策、教育制度、学校の日常に迫り、公教育が真正面から対処できる教育環境、条件整備の現状から今日的問題を深く掘り下げたい。さらに学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎知識も身に付けることをねらいとする。					
授業の概要					
教育制度についてその仕組みや考え方の本質を法的な観点を含めて考察し、現代の課題にどう対処していくべきかを学ぶ。児童生徒に対して課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む態度を育む指導をする学校教員となることを目指す学習となるので、学生自身が同様の力・態度を身に付けることとともに、自身の考察を深めることを目指し主体的な学修に取り組むことが望まれる。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
佐久間裕之編著『教育原理』 玉川大学出版部 2022年					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
第1：教育法規の理論と体系		2	第9：教育課程と学習指導要領		2
第2：公教育とは何か		2	第10：教科書制度		2
第3：教職と教員養成・研修		2	第11：学校・地域・保護者との連携及び学校安全		2
第4：教員の任用と身分保障		2	第12：特別支援教育制度		2
第5：教育行政の原理と国及び地方公共団体における教育行財政		2	第13：教育制度をめぐる諸課題(1)		2
第6：教育委員会の組織と職務		2	第14：教育制度をめぐる諸課題(2)		2
第7：教員の人事評価制度		2	第15：教育制度をめぐる諸課題(3)		2
第8：学校管理と学校経営及び学校評価		2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S88
授業科目名			授業形態		学科・コース
教育課程論			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	高田 博道
授業の目的・到達目標					
学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程についてその役割・機能・意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う事の意義を理解する。					
授業の概要					
授業教育の目的・理念や各学校の教育の目的・目標、教育課程の意義や課題などについてその役割、機能や編成の方法を学ぶとともに、教育課程編成に関する基本的知識や法的根拠、関係する学校内外の制度的枠組みなどを学びます。カリキュラム・マネジメントの意義についても理解します。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
吉田武男監修、根津朋実編著『教育課程』ミネルヴァ書房 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示 文部科学省）					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
第1回 教育課程とカリキュラム	2	第9回 高等学校の多様な教育課程	2		
第2回 カリキュラムの類型論	2	第10回 学習指導要領の変遷①	2		
第3回 教育課程と学習指導要領	2	第11回 学習指導要領の変遷②	2		
第4回 教育課程行政の基礎知識	2	第12回 学習指導要領の変遷③	2		
第5回 教科書と学習指導要領	2	第13回 学習指導要領の変遷④	2		
第6回 総合的学習の時間の成果と課題	2	第14回 教育課程をめぐる今日の動向①	2		
第7回 カリキュラム・マネジメントの理解	2	第15回 教育課程をめぐる今日の動向②	2		
第8回 カリキュラム・マネジメントの理解	2				
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S89
授業科目名			授業形態		学科・コース
メディアと教育			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択	30	2	高田 博道
授業の目的・到達目標					
インターネットを中心とする情報社会の進展には目覚ましいものがある。この科目では、メディアの歴史を振り返るとともに、これからの私たちの生活や学校にメディアが与える影響について理解し、正しく行動できることを到達目標とする。					
授業の概要					
人類の進歩の歴史とメディアの発達とは深く結びついており、その発達の歴史的な変遷を最初に概観する。続いて、近年の情報ネットワークの発展により、社会や学校の様々な場面で情報メディアが活用されるようになり、学びの形も変化しつつあることを学ぶ。特に、情報メディアやネットワークを中心に、多様な教授メディアに関する基礎的な知識やその活用方法について学習する。また、メディアが子どもたちの学びと生活及び社会にもたらした問題について理解を深める。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
『改訂 視聴覚メディアと教育』佐賀啓男編著・樹村房					
授業内容・授業計画					
		時間数		時間数	
(1) 「文字と印刷の歴史」について	2	(9) 子どもとコンピュータについて	2		
(2) 視聴覚メディアの歴史的変遷等について	2	(10) デジタル教科書について	2		
(3) 高度情報社会と人間について	2	(11) 著作権について	2		
(4) デジタル社会における学びの形について	2	(12)～(14)ネットワーク社会がもたらした諸問題とその対策について			
(5) 博物館と視聴覚メディアについて	2	①情報モラル	2		
(6) データベースと情報検索について	2	②ネットワーク社会の危険性	2		
(7) 電子書籍について	2	③個人情報保護	2		
(8) 子どもとテレビについて 子どもの生活とテレビのかかわりを実	2	(15) まとめと補足	2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度	
				科目コード	K-S100	
授業科目名			授業形態		学科・コース	
レクリエーション理論			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	選択	30	2	高田 博道	
授業の目的・到達目標						
レクリエーション (Recreation) 活動の目的は、自らの人生を豊かにするところにある。例えば、日々暮らす地域の人々との交流や自分と同じ趣味を持つ人との出会いは、仕事とはまた違った充実感を私たちに与えてくれる。レクリエーション活動は日本語では「余暇活動」と訳されるが、これは決して労働時間以外で実施されるものという意味ではなく、むしろ現代社会ではその後の労働意欲を喚起するために実施される活動、といった理解が進んでいる。そこで、本講義では、基本的なレクリエーションに対する理解を進め、それをどのようにしたら実生活の中に組み入れ役立てることが出来るかについて、具体的な事例を学びながら、理解することを到達目標としている。						
授業の概要						
第1章では「レクリエーション」に対する基本的理解を進める学修をする。第2章では現代社会におけるレクリエーションの必要性について学修する。第3章では健康とレクリエーションの関係について学修する。第4章では実際のレクリエーション活動時に必要なスキルについて学修する。第5章ではレクリエーション活動の企画について学修する。第6章ではレクリエーションプログラム作成方法について学修する。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%	
				レポート	30%	
使用テキスト・教材						
『改訂 視聴覚メディアと教育』佐賀啓男編著・樹村房						
授業内容・授業計画						
			時間数		時間数	
(1)	レクリエーションとは何か		2	(9)	レクリエーション・ボランティア	2
(2)	レクリエーションとレジャーの違い		2	(10)	レクリエーション活動に必要なスキルI	2
(3)	レクリエーション・フロー		2	(11)	レクリエーション活動に必要なスキルII	2
(4)	我が国のレクリエーション政策		2	(12)	レクリエーション・イベントの企画	2
(5)	現代社会におけるレクリエーションの価値		2	(13)	レクリエーション・リーダーの作り方	2
(6)	レクリエーションとヘルスケア		2	(14)	レクリエーション組織のマネジメント	2
(7)	ライフスキルとレクリエーション		2	(15)	まとめ	2
(8)	レクリエーション活動の実際		2			
その他			関連科目			